

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）

- A：十分達成できている
- B：おおむね達成できている
- C：やや不十分である
- D：不十分である

様式1（小・中）

学校名	武雄市立武雄北中学校
1 前年度 評価結果の概要	家庭学習の習慣化を狙った「810大作戦」が形骸化している様子があるため、次年度は、集団での学びあい（授業）と個人の自学力（家庭学習）をタブレットをうまく使いリンクさせるような見直しが必要である。 各種行事において全員が主体的に役割を果たした。今後も地域とつながる機会を増やししながら、心身ともに健康な生徒の育成を図りたい。 不登校生徒等の共通理解や対応はよくできた。ここに応じた指導の工夫や外部との連携との強化を図り、より適切な指導や対応、不登校の未然防止に取り組んでいく。

2 学校教育目標	「志をもちゆめ実現を目指す人」「自ら学びを求める人」「心身ともに健康な人」
----------	---------------------------------------

3 本年度の重点目標	生徒会など自主的な活動の活性化 丁寧な進路指導と学習意欲の醸成 部活動を充実させ、生徒の満足度を上げる
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	実施結果		評価	意見や提言
				達成度 (評価)	実地結果		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	●「学級（クラス）の友達と関わり合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童（生徒）70%以上	・各教科や領域において、毎時間もしくは単元ごとに、学習目標にあった話し合い活動を設定する。また、授業の振り返りを必ず行う。 ・各教科においてICTを有効に活用したり、他者とかかわる活動を仕組んだり「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながる授業づくりを実践する。 ・タブレットドリルを授業と関連させて自主的な学習を促す。 ・810大作戦の継続と徹底。	A	・「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒が85.9%であった。課題の内容や話し合いの方法についての研修を継続してきたい。	A	・生徒同士で意見交換する場を設け、主体的な学習を促す取り組みは素晴らしい。しかし、生徒アンケートにおける「わからないまま」という意見は、授業内容の理解度不足を示唆しており、改善が必要。
	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現のため、ICTを活用したり他者とかかわる活動を仕組んだりしたと回答した教員が80%以上。 ○学校評価アンケートにおいて、授業の振り返りにおいてタブレットドリルを活用し、810大作戦を達成できたと回答する生徒60%以上	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現のため、ICTを活用したり他者とかかわる活動を仕組んだりしたと回答した教員が80%以上。 ○学校評価アンケートにおいて、授業の振り返りにおいてタブレットドリルを活用し、810大作戦を達成できたと回答する生徒60%以上	・道徳の授業において、学級全体で意見を出し合う雰囲気づくりに努める。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施をして、授業の質の向上を目指す。 ・人権集会の場を設ける。	B	・道徳の授業に対して肯定的な回答をした生徒は85.8%と前回より増えており、自分の意見をもつことができている。 ・道徳に関する校内研修を行うことができず、教員の「意見を出し合える工夫をしている」と回答したのは、66.6%であった。 ・人権集会は、リモートで実施した。	B	・アンケート結果から、85.8%の生徒が道徳の授業を肯定的に評価していることが分かった。これは、高い評価と言える。 ・一方、保護者への道徳教育に関する情報発信が不足している可能性も指摘されている。学校では、保護者向けに道徳教育の内容や取り組みについて分かりやすく説明する機会を設けることが重要。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○気になる生徒や変化のあった生徒についての情報（毎月実施の生活アンケート）等の共有が職員間で確実にに行われ、対応についての共通理解が図られていると回答した教員90%以上	・生徒指導協議会で気になる生徒についての共通理解を図り、関係機関との連絡を密にし、生徒が安心・安全に生活できる環境を作る。 ・生活アンケートや教育相談アンケート等を実施し、記述の内容について学年、生徒指導を情報共有し、いじめの早期予防、早期発見に努める。	B	・生活アンケートや生徒からの情報をもとに、気になる生徒についての情報共有が確実（100%）に行われ、管理職を中心として、生徒や保護者に対して共通理解を図りながら対応することができた。 ・「お子さんのことを学校に相談しやすいと思う」と回答した保護者は69.5%に向上した。また、「学校に相談できる人がいる」と回答した生徒は72.9%であり、学校の相談体制が周知されてきたことがうかがえる。	B	・保護者と生徒の回答にギャップがあることから、相談できる人への見落としがある可能性がある。学校に相談できる人を増やす必要や学校に相談できない約3割の生徒への対応策の検討をほしい。 ・不登校生徒への支援も手厚くしてほしい。 ・全員が楽しく過ごせる環境づくりや部活動を含め友達づくりの環境づくり推進が求められる。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒70%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒70%以上	・行事ごとに個人目標を設定し、振り返りをさせ、目標に向けて計画、実践し達成感を味わわせるよう支援する。 ・生徒たちが将来を見据え、卒業後の進路について考えるために各学年で丁寧な進路学習を充実させる。 ・総合的な学習の時間で、地域のことを知り、地域のことを発信できるような学習内容を各学年で工夫する。	B	・行事ごとに個人目標を立てた。教員からの声掛けをしたり、よいところを見つけ学級や通信で紹介したりしたが、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒64.8%と数値目標70%に届かなかった。 ・「将来の夢や目標を持っている」については、肯定的な生徒の回答は58.9%と前回より少し増えている。総合的な学習で地域の職業の講話や職場体験、また高校調べなど各学年で工夫した進路学習ができた。	B	・今の子供たちは恵まれた環境にありながら、将来の夢や希望があると答えた子供や保護者が6割に満たないのは寂しい。特に、生徒のアンケート結果では、将来の夢や目標を持っているという項目が低いことが気になる。 ・夢が持たない生徒がいる背景には、「授業をわからなまま進んでいる」という心の声があるかもしれない。こうした生徒の声に耳を傾け、生徒と先生の信頼関係を築くことが重要。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の生徒85%以上	・自分の足で登下校するように指導する。 ・部活動開始を滞りの会終了後15分以内にスタートできるように全職員でサポートする。 ・食に関する専門的な知識や日頃の生活で役立つことを、年間計画をもとに栄養教諭と連携して指導する。 ・朝食摂取率95%以上を目指すとともに、栄養バランスに合った食育指導を行う。	B	・教職員の働きかけに対し、生徒の授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒62.4%であった。今後、特に運動部活動に入部していない生徒へのアプローチをしていきたい。 ・「健康に良い食事をし、朝食を毎日とっている」と回答した生徒は、92.9%と向上した。朝食欠食の生徒は固定しており、適宜声掛けを行っている。	A	・生徒が本日に1日60分運動しているのか疑問。1週間で420分という数字の根拠も知りたい。また、部活動に入っていない生徒の割合も気になる。 ・自転車通学や徒歩を運動と捉えていない生徒もいる。一方で、自転車通学と部活動指導に一生懸命取り組んでいるため、評価はAで良い。
	●望ましい生活習慣の形成	○学習や運動に計画的に取り組むとともに、余暇を有効活用しながら生活リズムを整え、十分な睡眠を確保できていると回答した生徒70%以上	・生活アンケートをもとに、生活習慣についての見直しを行う。 ・タイムレコーダーを活用し職員の毎月の時間外勤務時間を把握し適切な指導を行う。 ・定時退勤日や、部活動休業日を年休取得推進日として設定する。 ・挨拶や声掛けを大切に。お互いが見守りあう組織づくりを行う。	A	・学習や運動に計画的に取り組むとともに、生活リズムを整え、十分な睡眠を確保できていると答えた生徒70%程度であった。一方、ゲーム等で睡眠時間を確保できず生活リズムが不規則になったり、学校で眠っている生徒がおり適切な指導であるので対応策を実施している。	A	・現代社会では、SNSやゲームなどの誘惑が多く、学校だけで適切な指導を行うのは難しいという課題がある。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げられた時間外在校等時間の上限を遵守	・タイムレコーダーを活用し職員の毎月の時間外勤務時間を把握し適切な指導を行う。 ・定時退勤日や、部活動休業日を年休取得推進日として設定する。 ・挨拶や声掛けを大切に。お互いが見守りあう組織づくりを行う。	A	・タイムレコーダーを活用し職員の毎月の時間外勤務時間を分析し、業務を振り分けたり、支援したりした。また、時間外勤務を減らす呼びかけや工夫をした。 ・職員室にはベテラン教員が若手教員を育て支援する風土があり、お互いが見守りあう組織づくりができている。	A	・先生方の多忙化解消対策として、できるだけ割り切ってほしい。補充学習も必要かもしれないが、別の方法でわかる授業を考えてほしい。 ・部活動指導の在り方を今後も見守ってほしい。

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	・学校評価は他校でも一斉にされていると思うので、例えば市内平均の値と比較できると分析結果が分かりやすいはず。可能であれば次回、比較したい。比較すれば、武雄北中の特色が見えてくる。 ・次年度の課題は ①個別最適な指導についての授業の改善 ②生徒に寄り添った心の教育の推進 ③生徒が夢や目標が持てるような教育活動の充実であると考えられる。
----------------	------------------------	--